

2026年9月27日(日)

日本基督教団 大宮教会
大宮教会ビジョン
「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
(マタイによる福音書28:19-20)

聖霊降臨節第19主日

朝第1礼拝 9:00~10:00
朝第2礼拝 10:30~11:45
＜神の招き＞
前奏 ① 前奏曲 ニ短調 J.S.バッハ クレプス
② 私はあなたを呼び求めます
招きの詞 詩編100編1~5
交読詩編 43:1~5
讃美歌 352
＜神の言葉＞
聖書 申命記6:20~25
(旧約 聖書協会共同訳 276 頁)
エフェソの信徒への手紙6:1~9
(新約 聖書協会共同訳 351 頁)
祈禱
讃美歌 441
説教 「キリストを畏れる」 佐藤潤伝道師
祈禱
黙想
讃美歌 418
＜神への応答＞
使徒信条
献金
主の祈り
宣教報告②
頌栄 26
派遣と祝福
後奏 ① 我らはみなひとりの神を信ず J.C.バッハ
② イエスよ、我が喜び バッハ
宣教報告①

今週の御言葉

人にではなく主に仕えるように、喜んで仕えなさい。
(エフェソの信徒への手紙6:7)

サテライトチャーチ植竹礼拝 10:30~11:30
夕礼拝 18:00~19:00
＜神の招き＞
前奏 我がイエスよ、我は離れず ヴァルター
招きの詞 詩編100編1~5
交読詩編 43:1~5
讃美歌 21
＜神の言葉＞
聖書 イザヤ書50:4~11
(旧約 聖書協会共同訳 1130 頁)
ヨハネによる福音書10:22~42
(新約 聖書協会共同訳 183 頁)
祈禱
讃美歌 57
説教 「主イエスとユダヤ人」 熊江秀一牧師
祈禱
黙想
讃美歌 436
＜神への応答＞
使徒信条
献金
主の祈り
宣教報告
頌栄 29
派遣と祝福
後奏 天にまします我らの父よ パッヘルベル

ワークショップ(賛美礼拝) 14:00~15:00
説教「信仰と愛と希望に生きる教会」
熊江秀一牧師、

テサロニケの信徒への手紙一1:2~4
賛美: 威光・尊厳・栄誉、ホザナ、主はぶどうの木、
今こそキリストの愛に応えて、誰かが祈っている、
主の祈り、誰でもキリストのうちに、God Bless You

次週の礼拝(10月4日) 神学校日、伝道献身者奨励日・聖餐式

① 9:00
説教「御言葉を宣べ伝えなさい」 熊江秀一牧師
ヨエル書3:1~2、
テモテへの手紙二4:1~5
交読詩編 106:6~23
讃美歌 21、56、405、79、29

② 10:30
説教「このたとえが分からないのか」 川島一夫神学生
イザヤ書55:10~11、
マルコによる福音書4:1~20
交読詩編 106:6~23
讃美歌 56、195、412、79、29

㊦ 18:00
説教「主イエスに従うとは」 佐藤潤伝道師
列王記上19:19~21、
ルカによる福音書9:51~62
交読詩編 106:6~23
讃美歌 18、363、507、79、25

*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。*は祈禱当番の方。*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、㊦は夕礼拝。

■**今週の祈禱課題**■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 熊本地震と東日本大震災、能登半島地震、各地の豪雨被害者の為に
3. 神学校日礼拝の為に
4. 川島一夫神学生の為に
5. 世界聖餐日・世界宣教の日の為に
6. 長老会の為に
7. 10月の宣教の為に
8. 世界にキリストの平和がある為に
9. 病気の兄弟の為に

***関東教区お祈りカレンダー** 水戸中央教会 水戸自由が丘教会 土浦教会

◇先週の説教より 「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」 マタイによる福音書28章16～20節、詩編23編1～6節 熊江秀一牧師

大宮教会ヴィジョン「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」の中心聖句が与えられた。

この時、弟子たちはマリアたちの伝言により、ガリラヤへ行き、イエスの指示された山に登った。そして復活の主と出会い「ひれ伏した」(礼拝した)。復活の主によって召し集められ、主を礼拝する。この弟子の姿は教会の原型である。

しかしこの時の弟子は1人欠けていた。また「疑う」者もいた。この「疑う」は14章にも登場する。嵐の湖を主が歩いて来た時、沈みかけたペトロを助けつつ「なぜ疑ったのか」と語った言葉である。主から目をそらし、嵐の波風に目を向けた時、心が離れ「疑う」のである。この弟子は私たちの姿である。私たちも主によって集められ礼拝しつつも、欠け多く、疑いと弱さを持った群れである。

しかし復活の主は私たちを見捨てない。むしろ私たちを欠けや疑いがあるままに、召し集め、

ご自分の「権能」を示して、礼拝の民にして下さる。そして復活の主は召し集めた教会の民を遣わす。

「すべての民を主の弟子とする」を中心に、「行く」「洗礼を授ける」「教える」という4つの動詞からなる宣教の使命に遣わすのである。

「主の弟子とする」は「兄弟とする」という意味も含まれる。隣人を主にある兄弟姉妹として受け入れ、愛し、主に愛された神の家族とするのである。そして私たちは、弟子たちが山を下りて宣教に遣わされていったように、低く降る者となって、主の証人として遣わされる。

「私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」。主は遣わした私たちと共におられる。この約束は死をも越える約束である。大宣教命令によって遣わされて、「すべての民を喜びあふれる神の家族へ」大宮教会ヴィジョンに共に生きよう。